

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 伝統工芸品デジタル促進等補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3787)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円 (前年度予算額： 10,000 千円)

<財源内訳>

※R3.3月補正額

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,000	0	0	0	0	0	0	0	10,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

本県の伝統産業を取り巻く状況は、近年の生活様式の変化や安価な輸入品の増加等により需要が低迷する中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、更に深刻となっている。

コロナ社会において、低迷する需要を回復させ、伝統産業の振興を図るためには、各事業者が近年のDX・デジタル化の潮流を戦略的に活用し、ECサイトの構築やSNS等による情報発信、新たな需要獲得に向けた商品開発等に取り組むことが不可欠である。

一方で、伝統産業に携わる製造事業者の多くは中小零細性が強いことから、経費的な制約があり、デジタル化等に向けた対応が十分に進んでいない。

そこで、ウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据え、県内伝統産業の関係事業者が行うデジタル化をはじめとした需要拡大の取組みを支援することで、県が誇る伝統産業の需要回復及び産業活性化を図る。

(2) 事業内容

伝統産業に携わる事業者がウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据えて行うECサイトの構築、デジタルを利用した情報発信、展示会等出展、自社商品開発等の事業を助成する。

<補助金の概要>

○補助金名：岐阜県伝統工芸品デジタル促進等補助金

○補助対象及び補助率

補助対象：以下の事業に要する経費

補助対象事業	補助対象者	補助率	限度額
伝統産業従事者がウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据えて行うECサイト構築、情報発信、展示会等出展、自社商品開発等	・国が指定する伝統的工芸品の指定組合 ・県が指定する郷土工芸品の指定組合	補助対象経費の2/3以内	上限：1,000千円
	・国が指定する伝統的工芸品の指定組合の構成員等 ・県が指定する郷土工芸品の指定組合の構成員等		上限：300千円

(3) 県負担・補助率の考え方

上記のとおり

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,000	補助金
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

[3] 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④ 「ぎふブランド」づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

伝統産業に係る新たな取組みを支援することで、コロナ社会にあっても、本県が誇る伝統産業の振興を図るものである。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	伝統工芸品デジタル促進等補助金
補助事業者（団体）	国が指定する伝統的工芸品の指定組合及び組合の構成員等又は県が指定する郷土工芸品の指定組合及び組合の構成員等 （理由） 各事業者等の大半が中小零細であり、販路開拓や需要開拓に取り組むことは大きな負担を伴うため。
補助事業の概要	（目的） デジタル等を活用した需要拡大により伝統産業の振興を図る。 （内容） 伝統産業関係事業者がウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据えて行うECサイトの構築、情報発信、展示会等出展、自社商品開発等を支援する。
補助率・補助単価等	定率 （内容） 補助対象経費の2/3以内 （理由） 補助事業者に一定割合の負担を求めるため。
補助効果	伝統工芸品産業の振興、発展と保護
終期の設定	終期令和5年度 （理由） 「次年度の方向性」参照

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか
ウィズコロナ・アフターコロナ社会を見据え、伝統産業従事者のデジタル化及び需要拡大に向けた取組みを支援し、伝統産業の活性化を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R3年度)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
補助件数	0件	—	24件	24件	24件	%

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和3年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤がせい弱であるため継続した業界支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	補助金の目的を十分に説明し、随時事業を見直しながら効率的な支援を行っていく。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本県の伝統産業の需要は著しく縮小している。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統産業は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、販路開拓や需要開拓等に係る支援が必要であることから、事業を継続し、終期到来時の情勢等を踏まえ、継続または廃止等を検討する。
--